

かたふち

村の

給食便り 新年号



平成28年1月

明けましておめでとうございます。本年もかたふち村をどうぞよろしくお願いたします。さて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、当施設は昨年から角町歯科と共同で、「口から食べる楽しみの支援の充実」に力をいれています。普段何気なく食べている食事ですが、ご入所者のなかには食べる機能に障害があり、何らかの支援が必要な方が多くいらっしゃいます。今回はその取り組みに関して簡単にご紹介してみます

●まずは、食べることを理解しましょう

食べる行為を理解しやすいように5段階にわけて表してみます

- ①食べ物を認識する・・・目で見たり、においをかいだりして今から食事をするんだということを判断します。このことにより、食べ始める前から唾液がでて、胃の中では胃液の分泌が盛んになり体が食べる準備をおこないます
- ②歯で噛み砕きまとめる・・・食べ物を口に運び、食べ物の形状に合わせて噛み砕きながら唾液と混ぜ、食べ物を飲み込みやすい塊（食塊）にします
- ③喉の奥に移動させる・・・②でまとめた食べ物の塊を複雑な舌の動きで舌の奥へ運ばれ、そこから咽頭に送られます
- ④ごっくと飲み込む・・・食べ物の塊を、気管にはいらないように上手にごっくと飲み込み食道へ送り込みます
- ⑤胃へ運ばれる・・・食道を通った食べ物のかたまりが、ぜん動運動によって、胃に運ばれます

これらが一連の動作になります。私たちは特に意識していなくてもこれらの複雑な動作を簡単にできているのです。

●うまく食べれなくなった時、まずはどこに困りごとがあるかをチェックすることが大切です！

食べ物を目の前にしてもじーっと動かない方。食べ物を弄びなかなか口に入れようとされない方。かたい物が食べれなかったり、かたい物をずーっと口に入れて噛んでいるが飲み込まない方。お茶や汁物でムせる方。食べこぼしが多く上手に自分で食事出来ない方、食べる機能が低下してきた方にとって、上記にあるどの段階に困りごとがあり、どのような援助をしなければいけないか、まずはチェックすることが大切です。

かたふち村では、特に食事に対して支援が必要になったご利用者に対し、「食事観察」を月に一度おこなっています。歯科医師や歯科衛生士、管理栄養士、看護、介護職員などが参加し、食事している様子を観察してその方にどういった支援をしていけばよいかを多職種で検討する機会をつくっています。いろいろな専門職種が目みることば様々な角度からその方を観察でき、今まで以上により細かくチェックができるようになりました。



●はたして6か経過した成果は・・・？

昨年16名のご利用者を対象に食事観察を実施しました。6か月を経過しどのような変化があったかを振り返ってみたところ、体重が増加した方が5割。体重以外でも「自分で食べることができるようになった」「ムセが減ったようだ」など食事観察を始めたことによりうれしい変化もみられています。我々職員としても、いままで経験や感覚で食事の形態などを決めていましたが、歯科医の診断をもとに食事内容を決定できるということは、とても心強く、自信をもって援助できます。今後も角町歯科とかたふち村のタッグでご利用者の食事支援を行いたいと思います。

さあ！忘年会だ～！！

12月24日は多床棟のご利用者でXmas & 忘年会でした。今年はデザートバイキングで甘い時間を過ごしましたよ。チョコレートフォンデュも好評で、バナナやカステラにたっぷりチョコをからめていただきました。甘いスイーツに加え、ハンドベル隊による演奏もXmas気分を盛り上げてくれます。職員サンタからのプレゼントもあり皆さんいい笑顔で今年を締めくくることができましたよ。

12月28日はユニット棟の忘年会。こちらはお昼御飯の時間に刺身の舟盛りや鍋料理を囲み、ゆっくりとお食事会。お腹も満たされた頃を見計らって、毎年恒例のカラオケ大会に突入。今年もおいしいものを頂いて、みなさんでワイワイ楽しく過ごすことができました。来年も、こうやってみなさんと忘年会ができるとうれしいですね。



お詫びと訂正

前回の「給食だより 秋号」にて家庭でできる次亜塩素酸ナトリウムの希釈に誤りがありました。製品の濃度6%の場合1000ppmの消毒液にするには3Lの水に対し正しい液量は50mlです。(300mlは間違いでした)訂正し、お詫び申し上げます。

特別養護老人ホーム かたふち村
管理栄養士 山田 由貴